3月の中小企業月次景況調査(茨城県)

[令和5年3月末現在]

令和5年4月12日茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」「収益状況」は変化なし、「売上高」は改善した。

業種別では、製造業は「景況」が悪化したが、「売上高」、「収益状況」は改善した。非製造業は「売上高」、「収益状況」が悪化、「景況」は改善した。

製造業の「売上高」の数値が大幅に改善し、全体の数値を押し上げたが、依然として、幅 広い業界で、燃料や原材料等の価格高騰による収益確保に苦慮している旨を訴える報告 が多く見られた。また、新型コロナウイルスの政府の対応方針(マスク着用)に変化があっ た事に対して、今後に期待する声が聞かれた。

景況DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の▲30.8ポイント、非製造業は、前月比8.7ポイント 改善の▲17.4ポイント、全体では、前月比増減なしの▲24.5ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比26.9ポイント改善の7.7ポイント、非製造業は、前月比4.3ポイント 悪化の8.7ポイント、全体では、前月比12.3ポイント改善の8.2ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比11.5ポイント改善の▲42.3ポイント、非製造業は、前月比13.0ポイント 悪化の▲39.1ポイント、全体では、前月比増減なしの▲40.8ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

報告者名 報告年月

茨城県中小企業団体中央会 令和5年3月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
		学校給食パン	令和5年度からの基本加工賃が決定した。前年度よりも3%上昇したが、要求にはほど遠い決定であった。この春は、物価高騰を受け、春闘他でも回答が順調なようだが、学校給食においては全く影響がないようだ。
	食料品製造業	清酒	〇県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県2月の清酒課税移出数量は、前年同月比108.2%であった。本格焼酎についても、前年同月 比136.5%であった。コロナ禍による落ち込みは下げ止まったように思われるが、コロナ禍前 の2月と比べると78.8%とまだまだである。 2月の実績を分析すると吟醸酒・純米酒の高級酒はコロナ禍前に比べて97%と回復している。 しかし、主に飲食店で消費されている普通酒がコロナ禍前の60%と大きく落ち込んでいる。 〇県内当業界について 3月17日に茨城県産業技術イノベーションセンターにて今年の全国新酒鑑評会への出品対策と して「吟醸酒出品研究会」を行った。当日は国税当局の鑑定官や隣県の工業技術院の先生方が 出席し、品質の評価は良好との講評を頂いた。小規模の酒蔵が多い茨城では高い品質が生命線 となるので、今年も自信をもって販売に注力していけると考える。
		納豆	一般消費者向けメーカーは先月同様に値上げの傾向が続いているが、コストの上昇も続いている。収益状況は、各社の値上げ幅等により左右されるので、一律ではない。一方、土産品向けメーカーも先月に引き続き売り上げは好調であり、梅まつりでも同様に昨年よりも伸びているものの、やはりコロナ禍前の水準には及ばなかった。また、資金繰りに関しては、コロナ禍で借り入れを抱えたメーカーにとって将来的な不安感が拭えないようである。
		菓子	新型コロナウイルスの感染は収束したように感じられ、経済活動が復活してきたが、材料費の 高騰や物価高で収益性が悪化している。しかし、インバウンドによるお菓子の需要は感じてい る。
		漬物	物価高の波が押し寄せているが、組合員企業は、それぞれ値上げ交渉等で努力しながら経営している。
製	繊維工業	袋物	年度末に急な受注があり、久しぶりに組合内で対応する取引があった。しかし、各社とも人員 不足等で以前のように急な受注に対応できない。
造		製材	構造材の価格は下落し、造作材・羽柄材の価格はほぼ保合で推移した。 輸入材の価格については、弱含みで推移した。 原木については、杉は柱材で急激な値下がりが続き、桧についても柱・土台材とも値下がりが 続いている。
業	木材・木材製品	県北地区プレカット	3月の加工実績は目標の70%であった。木材の価格が下がってきた。4月から電気の再契約の時期となり、大幅な電気代上昇となる。加工代の値上げをお客様にお願いしているところである。
		県央地区プレカット	3月は前半に大型物件の加工があって忙しい状況だったが、後半は加工量が減少。3月全体としては低調な状況となった。 電気代など経費が以前よりも上昇しているが、全体の仕事量が増えていない上に、加工単価も上げられない。
	紙・紙加工品	段ボール	原材料が値上がりし、収益が悪化している。業界全体の生産量も前年同月と比べ5~10%減少 している。世の中の消費が落ちている。必要な物以外は買わない傾向になっているようだ。
	印刷	総合印刷	印刷物の需要減少に加えて、資材である印刷用紙・インキ・刷版材料等の値上げによるコスト 上昇分を販売価格にフルに転嫁できない業界の弱い立場があり、引き続き経営環境は厳しい。
	窯業・土石製品	陶磁器	産地状況に特に変わりはないが、イベントなどでの新型コロナウイルスへの対応方針が変化した(マスクの着用等)。コロナ禍前に戻す取組を少しずつであるが、実行したい。
	鉄鋼・金属	鉄鋼	景況については、前年同月と同程度であった。建築関連・車両関連部品・その他機械部品についても、受注量が増えた。半導体関連部品については、受注量が悪化している。組合員全体で電気代の値上がり(平均で50%アップ)があり、材料費・金属・燃料代を含む石油製品等、全ての資材が値上がりしている。昨年、めっき加工単価を各社値上げしているが、全ての資材の値上がりで収益の悪化が出始めている。再度、めっき加工単価値上げを検討している組合員もいる。
	一般機器	生産用機械	団地全体の売上高は、主要取引先からの受注がほぼ前年同月の水準となったことを主要因として、前年同月比96.7%となった。組合員企業全体の従業員数は前年同月と同水準になっている。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	売上高は徐々に上昇しているが、収益は悪化傾向にある。部品供給(主に半導体)の悪化、前 月同様に半製品のストック過剰も問題である。

報告者名 報告年月

茨城県中小企業団体中央会 令和5年3月

情報連絡一覧票

\setminus	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
		水産卸	精算所取扱高は、前年同月比2.86%増加した。先月同様、ほぼ全ての商品単価が上昇しているため、精算所取扱高は前年比を上回った。年度末ということもあり、ほぼ全ての業者で在庫を減らしたため、取扱貨物量はかなり減少している。今後、新型コロナウイルス関連の規制緩和、感染者数の減少に伴い、少しずつでも以前のような活気ある市場に戻る事を期待している。
	卸売業	米麦卸売業	販売価格が多少上昇したものの、電気代や生産資材等の価格高騰分をすべては転嫁できでおらず、厳しい状況に変わりない。
		袋セメント卸	袋セメントの3月出荷数量は35.3千袋、前年同月比81.5%と低調。圏央道周辺やつくば地区を中心に県南・県西地域の需要は引き続き旺盛であるが、県央・県北地域の低迷をカバー出来ずに前年同月比でマイナスの実績となった。
		県北地区共同店舗	売上は前年同月比107.4%、客数は同108.4%、前年同月の売上を確保できた店舗は61.5%であった。ポイントカード終了に伴う、ポイントとお買物券の交換での顧客の掘り起こしが、今回の結果に繋がった。
		県央地区共同店舗	館全体の既存店+新店(アミューズメント1店舗)の売上(客数)前年同月比は109%(104%)となり売上は昨年同月より好調であった。 主要業種では、食品106%(104%)、飲食118%(118%)、ファッション120%(108%)であった。 昨年は4月に開催した誕生祭企画を3月末から開催した事と、笠間市プレミアム付商品券の使用(~3/12まで)があり、実績が伸びたと考えられる。収益状況については電気料金をはじめ備品代やチラシの作成費も値上がりしており非常に収益状況を圧迫している。4/2に店舗が1店閉店となった。
		家電	2023年家電業界全体の見通しは、白物家電は出荷金額ベースで前年比で増加、AV機器(オーディオ家電)の見通しは、出荷金額で前年を下回るとの見込みである。3月は組合員の売上減少、収益状況にも厳しさが見られた。新年度はコロナ禍も落ち着きが見られるので、挽回していきたい。
非製	小売業	燃料小売	原油価格は昨年度に比べ下がってきているものの、依然として高い水準にある。県内においては、県外の大手流通業者がガソリンスタンドを新規オープンをして、地元SSの仕入価格を下回るような極端な安価看板を出し続け、部分的であるが、価格の陥没(安値)地区が出ている。燃料油以外では花粉が多く飛んだこともあり、セルフの洗車客がとても多かった。
造業		中古自動車	前年同月比で販売価格は89.1%と減少したが、販売台数が同124.8%と大幅に上昇したため、 売上高は同111.1%と増加した。新車製造遅延の解消で下取車が増加傾向にあり、流通市場の タマ不足も徐々に回復している。また、十分な供給量が流通相場を安定させており、価格高騰 が続いた昨年と比較すると、小売価格は下落しているが、従来の販売価格に戻ったと言える。
*		食料品	3月については売上が前年同月比で103%となり、2か月連続で前年同月超えを達成した。要因として、部門ごとの売上で前年3月からの青果、惣菜、納豆・豆腐等の日配商品の主力部門売上が前年同月売上を上回ることができたのが大きな要因であり、今後も継続できるようにしていく。 鮮魚部門の売上は前年同月比で96%、たばこは92%と前年同月を下回ったのが課題なので、対策を今後も講じていく。新型コロナウイルスの感染者が減少傾向で政府の方針も3月中旬も変更となったが、今後も来店客に安心・安全な店であるように、新型コロナウイルスの対策は万全に行っていく。
		野菜・果実	3月は、野菜・果物合計で前年同月比92.9%の取扱高となった。野菜に関しては、多少の悪天候はありつつも、それほど収穫に影響はなく、多くの作物で出荷が安定し、2月末から引き続き単価安で推移した。果実に関しても、全体的に生育が順調で、価格は前年同月並みであった。
	商店街	水戸	材料(飲食店等)の価格や光熱費の高騰で収益が悪化している。人手不足であり、人件費も上 昇している。
		筑西	電気料金の高騰が、経営を圧迫している。
		自動車整備	当月の組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で普通車・軽自動車ともにほぼ横ばいであった。(普通車104.42%、軽自動車97.97%)したがって、業界としては回復基調にない。
	サービス業	ホテル・旅館	全国旅行割による宿泊者数は引き続き好調であり、何とか持ちこたえている状況。各施設とも4月以降について不安を抱いている。観光ホテルなど比較的部屋の空室は減っていても少人数での個人客利用が多く、収益状況は芳しくはない。一方、春休み合宿の利用はだいぶ戻ってきている。 雇用については必要な人員が確保できておらず、状況は変わらない。 電気料や資材等の高騰などによるコスト増については改善の兆しが見えず、結果として思うように収益が上がりにくい状況である。

報告者名 報告年月

茨城県中小企業団体中央会 令和5年3月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非	建設業	総合	年度末にあたり、ほとんどの工事が工期末を迎え現場は繁忙である。また、同時に公共工事の工事完成時に自治体に提出する書類の作成に追われ、工事担当者は定められた休日をとれない。4月からは新年度になるが、やはり各社手持ち工事が少なく従業員は仕事が大幅に減少し、建設機械の稼働がしなくなる。工事発注の平準化が進んではいるが、年度初めはまだまだ仕事量が少ない。
製造業	運輸業	軽貨物運送	当月の組合員数は109名、車輛台数は140台で前月と比較して1名減少、2台の減少であった。また、運送売上高については、前年同月比97.7%と減少であった。 全国連合会での当月の組合員数は6,634名、車輛台数7,878台で前月と比較して45名減少、57台減少であった。
	2.00%	県北地区一般貨物	主要顧客の出荷物量は、年度末であるが低調で横ばい。売上高も横ばいで推移した。 一方、燃料価格は、依然として高値で推移しており、燃料以外の経費も総じて高くなってい る。収益は厳しい状況が継続している。

行政庁・中央会に対する要望事項

1		113/1 173/2/7 022-7/7
集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
	学校給食パン	学校給食におけるパン給食回数増の要望
食料品	納豆	行政庁へは、新型コロナウイルスの様々な業界への影響に対して、都度適切な対策を期待している。また、ロシアによるウクライナ侵攻問題も、まだまだ長引きそうであり、同様である。 更には、資金繰り対策も期待したい。そして、土産品業界としては、なかなかコロナ禍前の売 上水準に回復しない中、今後とも全国旅行支援の継続と拡充を望んでいる。
1 + 44	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報や事例を教えて欲しい。また、県内で活動をPR希望の組合や団体様を紹介して頂けると幸いです。
小売業	燃料小売	・揮発油税に課税している二重課税の廃止 ・燃料油価格激変緩和緩和策の継続 ・コロナ禍の景気対策
建設業	総合	働き方改革が進むが、2月3月は週休2日をとれていない。特に、現場管理者は書類作成に追われ休日出勤及び残業に追われる。公共工事の工事完了時に自治体に提出する書類の作成に時間をとられている。不要と感じる書類も多いため工事担当者はストレスを溜めており、それが理由で退職する人もいる。県は様々な努力をしてこの書類の削減を進めているので、市にも書類削減の対応をお願いしたい。

		月	次景況調査	3月のD	I (前年同	月比)			
75 F	全		体	製	造	業	非	製造	業
項目	3月	2月	前月比	3月	2月	前月比	3月	2月	前月比
景 況	▲ 24. 5	▲ 24. 5	0.0	▲ 30.8	▲ 23.1	▲ 7.7	▲ 17.4	▲ 26.1	8. 7
売上高	8. 2	▲ 4.1	12. 3	7. 7	▲ 19.2	26. 9	8. 7	13. 0	▲ 4.3
収 益 状 況	▲ 40.8	▲ 40.8	0.0	▲ 42. 3	▲ 53.8	11.5	▲ 39.1	▲ 26.1	▲ 13. 0
販 売 価 格	20. 4	24. 5	▲ 4. 1	19. 2	7.7	11. 5	21. 7	43. 5	▲ 21.8
取引条件	▲ 26.5	▲ 28.6	2. 1	▲ 26. 9	▲ 30.8	3. 9	▲ 26.1	▲ 26.1	0. 0

中小企業月次景況調査(令和5年3月)DI値(前年同月比)

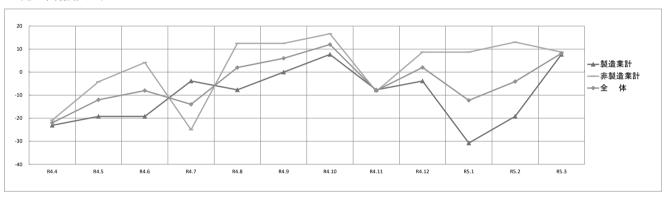
				売上	言			:	在庫	数量				販売値	格			J	取引条件	‡			収益	状況			:	資金繰	19			設	備操	業度			雇用.	人員			ž	集界の:	景況	
			DΙ		内	訳)		DI		(内	訳))	DΙ		内	訳)		DI	(内]	訳)	D I		(内	訳)		DΙ	(内	訳)		DΙ		(内	訳)	DI		(内	iii	(۶	DI		(内	訳)
			٥.	增加	不変	減少業	界数	٥.	增加	不変	減少	業界数	٥.	上昇	不変	悪化素			好転 不	変悪	化素界		好転	不変	悪化	業界数		好転	不变	悪化 業界	P.数	٥.	上昇	不変	悪化業界		增加	不多	き 減く	文 業界数	<u> </u>	好転	不変	悪化 業界数
	食	料品	33. 3	2	4	0	6	△ 33.3	0	4	2	6	66. 7	4	2	0 (6	0. 0	0	6	0 6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 66.7	0	2	4 6	6	0.0	1	4	1 6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 16.7	0	5	1 6
	繊維	红葉	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0 3	3 Δ	66. 7	0	1	2 3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2 3	3	△ 33.3	0	2	1 3	33. 3	1	2	0	3	0.0	1	1	1 3
	木材・	木製品	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0 3	3	0.0	0	3	0 3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0 3	3	△ 33.3	0	2	1 3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2 3
	紙・細	低加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0. 0	0	1	0 1	1	0. 0	0	1	0 1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0 1	1	0.0	0	1	0 1	0.0	0	1	0	1	Δ 100.0	0	0	1 1
	印	[F]	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0 1	1 A	100. 0	0	0	1 1	Δ 100.0	0	0	1	1	Δ 100.0	0	0	1 1	1	0.0	0	1	0 1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0 1
製	化学	・ゴム	Δ 100.0	0	0	1	1	100. 0	1	0	0	1	Δ 100.0	0	0	1 1	1 A	100. 0	0	0	1 1	Δ 100.0	0	0	1	1	Δ 100.0	0	0	1 1	1	Δ 100.0	0	0	1 1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1 1
造業	棄業・:	土石製品	△ 20.0	0	4	1	5	0. 0	0	5	0	5	40. 0	2	3	0 !	5 Δ	20. 0	0	4	1 5	△ 40.0	0	3	2	5	0.0	0	5	0 5	5	0. 0	0	5	0 5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2 5
	鉄鋼	・金属	0.0	0	1	0	1	0. 0	0	1	0	1	0.0	0	1	0 1	1	0. 0	0	1	0 1	Δ 100.0	0	0	1	1	0. 0	0	1	0 1	1	0. 0	0	1	0 1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0 1
		Q機器	0. 0	0	1	0	1	0. 0	0	1	0	1	0. 0	0	1	0 1	1	0. 0	0	1	0 1	0.0	0	1	0	1	0. 0	0	1	0 1	1	0. 0	0	1	0 1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0 1
	雷尔	(機器	100. 0	1	0	0	1	0. 0	0	1	0	1	0. 0	0	1	0 1	1	0. 0	0	1	0 1	0,0	0	1	0	1	0. 0	0	1	0 1	1	0. 0	0	1	0 1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0 1
		长機器	66. 7	2	1		3	33, 3	2		1	3	0.0	1	1	1 ;	-	66. 7	0		2 3	-	0	1	2	3	△ 66.7	0		2 3	2	66. 7	2	1	0 3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1 3
		集計	7.7	5	18		26	∆ 3.8	3	19		26	19. 2	7	17	2 2	-	26. 9			7 26		0	15		26	△ 38.5	0		10 2		Δ 3.8	3		4 26		1	23			△ 30.8	1	16	
				5										,			-					_		10					-		+	Δ 3. 6	3	19	4 20			-	+			1		
		売業	0.0	1	1			△ 66.7	0	1	2	3	100.0	3	0	0 3	-	33. 3			1 3		0	1	2	3	0.0	0		0 3						0.0	0	3	+		△ 66.7	0	1	2 3
非		街舎む)	9. 1	5	2		_	△ 27.3	0	8	3	11	Δ 9.1	2	6	3 1	1 △	36. 4			5 11		0	6		11	△ 36.4	0		4 1				/		Δ 18.2	0	9	+		0.0	2		2 11
製	サー	ピス業	50. 0	1	1	0	2				/		50. 0	1	1	0 2	2 Δ	50.0	0	1	1 2	Δ 100.0	0	0	2	2	△ 50.0	0	1	1 2	2	`	X			Δ 100.0	0	0	2	2	Δ 100.0	0	0	2 2
造業	建!	設業	0.0	1	3	1	5		\geq	<			40. 0	2	3	0 {	5	0.0	0	5	0 5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0 5	5	/	/ `			0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0 5
	速!	輸業	0.0	0	2	0	2				<u> </u>		0.0	0	2	0 2	2	0.0	0	2	0 2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1 2	2			`		△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0 2
	非製	造業計	8. 7	8	9	6 2	23	△ 35.7	0	9	5	14	21. 7	8	12	3 2	З Д	26. 1	1 1	5	7 23	△ 39.1	0	14	9	23	△ 26.1	0	17	6 2	3					Δ 21.7	0	18	5	23	Δ 17.4	2	15	6 23
	全	体	8. 2	13	27	9 4	49	△ 15.0	3	28	9	40	20. 4	15	29	5 4	.9 A	26. 5	1 3	34 1	4 49	△ 40.8	0	29	20	49	△ 32.7	0	33	16 4	19	Δ 3.8	3	19	4 26	Δ 12.2	1	41	7	49	△ 24.5	3	31	15 49

D I 値推移表 (R4.4月 ~ R5.3月期)

≪売上高の推移≫

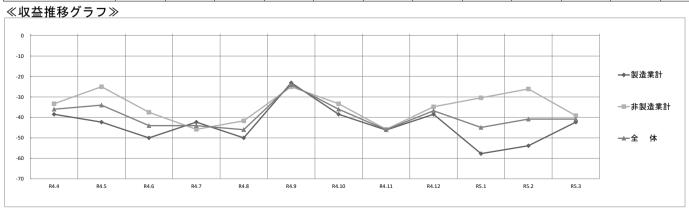
前年同月比	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1	R5. 2	R5. 3
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 16. 7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 16. 7	▲ 16. 7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	33. 3
製造業(食料品製造業以外	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10. 0	0.0	10. 0	15. 0	▲ 5.0	10. 0	▲ 30.0	▲ 15.0	0.0
製造業計	▲ 23. 1	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 3.8	▲ 7.7	0.0	7. 7	▲ 7.7	▲ 3.8	▲ 30.8	▲ 19.2	7. 7
卸売業	33. 3	0.0	0.0	▲ 66.7	0.0	66. 7	0.0	▲ 66.7	0. 0	▲ 33.3	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 33.3	▲ 25.0	0. 0	▲ 16.7	8. 3	▲ 8.3	0.0	▲ 8.3	0. 0	27. 3	0. 0	9. 1
サービス業	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0.0	50. 0	50. 0	50. 0	50. 0	▲ 50.0	50. 0	50. 0
建設業	▲ 40.0	20. 0	0. 0	▲ 20.0	20. 0	0.0	40. 0	▲ 20.0	0. 0	20. 0	20. 0	0.0
運輸業	0. 0	50. 0	50. 0	▲ 50.0	50. 0	50. 0	50. 0	50. 0	50. 0	0. 0	50. 0	0. 0
非製造業計	▲ 20.8	▲ 4.2	4. 2	▲ 25.0	12. 5	12. 5	16. 7	▲ 8.3	8. 7	8. 7	13. 0	8. 7
全 体	▲ 22. 0	▲ 12. 0	▲ 8.0	▲ 14.0	2. 0	6. 0	12.0	▲ 8.0	2. 0	▲ 12.2	▲ 4.1	8. 2

≪売上高推移グラフ≫



≪収益の推移≫

《·区皿 07]正19 //												
前年同月比	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1	R5. 2	R5. 3
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 16.7
製造業(食料品製造業以外	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 45.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 10.0	▲ 25. 0	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
製造業計	▲ 38.5	▲ 42.3	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 50.0	▲ 23. 1	▲ 38.5	▲ 46. 2	▲ 38.5	▲ 57.7	▲ 53.8	▲ 42.3
卸売業	0. 0	0.0	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 41. 7	▲ 50.0	▲ 36.4	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 45.5
サービス業	▲ 50.0	0. 0	▲ 50.0	1 00.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	1 00.0	▲ 100.0	▲ 100.0
建設業	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0	0.0	4 0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	20. 0	0. 0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0. 0	0. 0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 45.8	▲ 34.8	▲ 30.4	▲ 26.1	▲ 39.1
全 体	▲ 36.0	▲ 34.0	▲ 44.0	4 4.0	▲ 46.0	▲ 24. 0	▲ 36.0	▲ 46.0	▲ 36.7	4 4.9	▲ 40.8	4 0.8

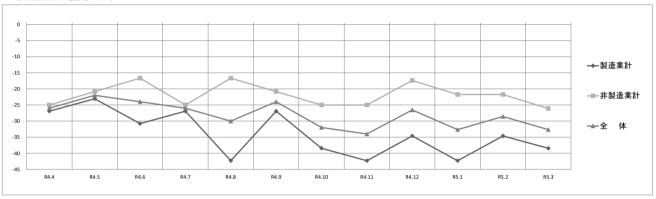


D I 値推移表 (R4.4月 ~ R5.3月期)

≪資金繰りの推移≫

前年同月比	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1	R5. 2	R5. 3
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 25. 0	▲ 35.0	▲ 25.0	▲ 30.0
製造業計	▲ 26.9	▲ 23. 1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 26.9	▲ 38.5	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 38.5
卸売業	0. 0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0. 0	0. 0	0.0	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 25. 0	▲ 41. 7	▲ 41.7	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 36.4
サービス業	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0.0	0.0	0.0	0. 0	0. 0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0.0	▲ 20.0	0.0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 16. 7	▲ 25.0	▲ 16. 7	▲ 20.8	▲ 25. 0	▲ 25. 0	▲ 17. 4	▲ 21.7	▲ 21.7	▲ 26. 1
全 体	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 24.0	▲ 26.0	▲ 30.0	▲ 24. 0	▲ 32.0	▲ 34.0	▲ 26.5	▲ 32.7	▲ 28.6	▲ 32. 7

≪資金繰り推移グラフ≫



≪景況の推移≫

" NC 100 of 1E 10 "												
前年同月比	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1	R5. 2	R5. 3
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7
製造業(食料品製造業以外	▲ 30.0	4 0.0	▲ 35.0	4 0.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 25. 0	▲ 25.0	▲ 20.0	4 0.0	▲ 25.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 42. 3	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 46. 2	▲ 42.3	▲ 23. 1	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 38.5	▲ 23.1	▲ 30.8
卸売業	0. 0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 27.3	▲ 9.1	▲ 18.2	0.0
サービス業	0. 0	50. 0	0. 0	0. 0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	1 00.0	▲ 100.0	▲ 100.0
建設業	▲ 60.0	▲ 40.0	4 0.0	▲ 20.0	▲ 60.0	▲ 20.0	0. 0	0. 0	▲ 20.0	20. 0	0. 0	0. 0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	1 00.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0. 0	0. 0	0.0	0. 0	0.0
非製造業計	▲ 33.3	▲ 16. 7	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 20.8	▲ 29.2	▲ 30.4	▲ 17. 4	▲ 26.1	▲ 17.4
全 体	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 30.0	▲ 36.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 30.0	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 24.5	▲ 24.5

≪景況推移グラフ≫

